



歯科医・彌勒寺美鈴の

後悔しない

歯科治療の受け方

第10回

「妊娠中の歯科治療について」

土沢デンタルクリニックの彌勒寺です。今回も引き続き、自ら出産を経験し、目下子育て中の私の妻で歯科医師彌勒寺美鈴がお送りします。

こんにちは。今回は「妊娠中の歯科治療について」ということで受診前～治療時に気になることまでを解説していきます。

- ① 妊娠中に歯科治療を受ける時期は、妊娠中期(5～7ヶ月)が最適です。妊娠初期や後期は応急処置のみ可能です。
- ② 母子手帳を持参し、問診時に今の産科の状況と、歯科に対する希望を伝えましょう。
- ③ 治療の前に歯科医師にもう一度詳しく症状と希望を伝えましょう。
- ④ レントゲンを撮る場合は、防護エプロンで腹部を覆ってもらいましょう。基本的に歯科で行なうレントゲン撮影は赤ちゃんに直接あたることはなく、さらに防護エプロンをすればまず問題ありません。むやみに怖がっては正しい治療を行うことができない場合もあります。
- ⑤ 治療時も楽な体勢に、椅子の傾きを調整してもらいましょう。膝を立てたり、背中を少し立ててもらったりし、リラックスして治療を受けましょう。
- ⑥ 歯科の麻酔は通常局所麻酔でごく少量(1～2ml)で、帝王切開や無痛分娩で使用されるものと同じですので、母子ともに影響を心配する必要はありません。ただ今まで歯科の麻酔で気分が悪くなった

ことがある人は、事前にそのことを伝えましょう。

- ⑦ 抜歯するかどうかは、よく歯科医師と相談しましょう。
- ⑧ 薬の服用も慎重に。特に妊娠初期の2～4ヶ月(4～15週)は赤ちゃんの外形が作られる時期で、最も注意が必要です。ただしひどい痛みの場合は、我慢するほうが逆におなかの赤ちゃんに悪影響を与えることがあるので、歯科と産科の先生によく相談しましょう。
- ⑨ 治療が終わった後、急に立ち上がると立ちくらみがすることがあります。それは大きくなったお腹が足の付け根の血管を圧迫し、低血圧になるからです。なので、治療中に楽な体位(⑤参照)をとり、治療後もゆっくりと動きましょう。また、トイレが近くなったり、気分が悪くなったときには我慢せず、歯科医師やアシスタントに伝えましょう。

以上が妊娠中の歯科治療を受けるポイントになります。全てを通じて1番大事なことは、必ず「妊娠中」と告げることです。例え聞かれなくても、特に見た目ではわからない妊娠初期のうちでも、必ず「妊娠中」とお伝えください。

赤ちゃんに出会うまでの時間を快適に過ごすため、マタニティライフをエンジョイされるためにもぜひ一度歯科検診を受けることをオススメします。

次回「こんにちは、赤ちゃん！ むし歯になりにくい子の育て方」です。

次回 こんにちは、赤ちゃん！ むし歯になりにくい子の育て方



～著者プロフィール～

彌勒寺 美鈴(みろくじ みすず) 1979年栃木県生まれ。

土沢デンタルクリニック勤務歯科医師

土沢デンタルクリニック 宇都宮市本丸町11-12 TEL 028-634-5141

HP <http://tda86.com>

略歴

日本歯科大学卒業 東京医科歯科大学附属病院研修医修了

東京、神奈川(川崎市)の歯科医院勤務の後、現在に至る。

私の父、姉、そして夫も歯科医師ですが、出産を経験したのは今のところ私だけです。なので、特に妊婦さんやお子様に関わる全ての方、お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。

当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

